■日本で最初の表記法

紀元前の日本人は文字を有ってゐませんでした。一世紀に入ると、中国や韓国から漢字が入って来ましたので、これを“仮借”して国語を表記する事が起りました。

和我夜度爾　左加里爾散家留　宇梅能波奈　知流倍久奈里奴
美年必登聞我母

といふ表記法がこれです。これは初期の万葉集に見える表記法ですが、この歌の表記に用ひられてゐる漢字は、総て“仮借”に依ってゐます。この使ひ方は万葉集に多く見られる所から、“万葉がな”と呼ばれてゐます。かなは“仮字”とも書かれますが、それは“仮借字”といふ意味でせう。

表語文字だと、どうしても千の単位の文字が必要になりますが、仮借だと、その言語の音韻の種類の数だけあれば足ります。ですから、理論的には我が国では47字の漢字を借りるだけで、どんな言葉でも表現できるわけです。それで、文字を創作するだけの能力の無い民族は、総てこのやうに既存の文字を仮借したものです。そしてこの“仮借”が、欧米の学者たちの言ふ“表音文字”なのです。